

第2回四日市市制施行120周年記念事業企画委員会 議事録

○日 時 平成29年1月11日(水) 午後5時～7時30分

○場 所 四日市市総合会館 7F 第1研修室

○出席者 委員19名

小林慶太郎委員長、佐藤裕毅委員、水谷晴香委員、相良怜奈委員、平田岳志委員、堀田正仁委員、林竜二委員、数馬桂子委員、久安典之委員、池田汐里委員、袴田亜樹委員、山内満委員、馬場宏委員、柳川平和委員、佐藤司委員、脇内一仁委員、辻実久委員、安藤敦子委員、曾田晋太郎委員

事務局

森智広市長、舘英次政策推進部長、荒木秀訓政策推進課長、政策推進課 位田・小川

○傍聴者 なし

- 議 事
1. 市長あいさつ
 2. 120周年記念事業について

○議事内容

1. 市長あいさつ

いよいよ本年、市制施行120周年を迎える。市長としてスタートした年が、市の記念すべき120周年とのことで、運命のようなものを感じている。市民の皆様と一体となって、今年1年を盛り上げていきたいので、どうかお力添えをいただきたい。

2. 120周年記念事業について

●シンボル・マークについて事務局より決定の報告

●市企画イベントについて

A委員：ぜひ「あすなろう鉄道」を絡めてイベントを実施してほしい。

事務局：あすなろう鉄道の利用促進については、毎年市として実施している。ぜひ120周年としても企画できるよう働きかけていきたい。

B委員：四日市駅周辺を周遊できるイベントを考えてほしい。(稲葉三右衛門像—中央通り—泗翠庵) 駅前に行けば誰でも「120周年」を目にする、知ってもらえるようになるとよい。

C委員：三浜文化会館も活用してほしい。

事務局：来年度後半には四日市市文化会館のホールが使えなくなることもあり、活用していきたい。

D委員：最近の近鉄四日市の駅前には夜の飲食店街のイメージが強くなっている。日中の商店街に人が集まるイベントを行いたい。また、企業もボランティアでイベントに参加できるような機会があ

るとよい。

E委員：三重県や四日市出身の芸能人が来るとよい。市制施行日である8月1日を休日にしてもらえる
と盛り上がりやすい。

F委員：去年と同じことをするのでは意味がない。多少なりともバージョンアップしたものにし、記念
事業らしいものをしてほしい。また、将来のある子どもが夢を持てるイベントであってほしい。

事務局：観光大使に就任していただいている有名人の方がいらっしゃるので、その方々にイベントに参
加いただけるよう働きかけたい。また、ボランティアの参加として、市内企業に対し応援依頼
を行っていききたい。各部署のイベントのテーマに子どもに対する視点を取り入れていききたい。

G委員：120周年ということで歴史を感じるイベントを考えたい。例えば四日市に根付いているまつ
りの多くにからくり人形が用いられており、そうしたからくり人形に焦点を当て、博物館の企
画展としてミニチュアを展示するなど面白い。個人でからくり人形のミニチュアを制作して
いる方が愛知県にいらっしゃり、協力依頼してもよいのではないか。また、四日市はJAX
Aと連携していることから、宇宙をテーマにイベントを行い、ペットボトルロケットの記録更
新を目指すとか、宇宙人は存在するか本気で議論するとか、何か熱くなれるものが楽しい。

H委員：イベントとなると、どうしても出かけていくイメージがある。外へ出られない人が自宅でも参
加できるイベントを考えてほしい。

I委員：コンセプトが明確にならない中、イベントについて話しても煮詰まらないのではないかと
思っている。

C委員：市企画、市民企画の線引きがわからないところもある。分けずにまとめて議論してはどうか。

G委員：四日市を知ってもらうためにPR動画を作成してはどうか。

事務局：昨年度すでに作成しており、ホームページにもアップロードしている。観光大使のMs.OOJA
さんが歌う主題歌に乗せた物語形式のものである。ぜひご覧いただきたい。

H委員：四日市市民に気に留めてもらえる方法を考えたい。例えば、広報よっかいちを毎月読んでいな
いと応募できない懸賞など。

C委員：広報よっかいちは月2回発行であるから、毎月5問ずつクイズを出題するとちょうど120問
となり、面白いのではないかと考えている。

事務局：120周年記念の特集号は出したが、他にも何か仕掛けを考えていく。

J委員：懸賞を出すなら、四日市の特産物から選べるギフトができるといい。内陸部と沿岸部のコラボ
など、新たな企画を考えたい。

E委員：ツイッターでリツイートした人にプレゼントがあるなど、若者でも参加しやすい形を考えてほ
しい。

A委員：せつかくの1年なので、年間通じて目に触れる、耳にする機会を増やさなければいけない。あ
ちこちに120周年をPRできる予算を割いてほしい。

G委員：マスコミ受けするようなインパクトも必要だ。四日市1周マラソン、全地区を回る駅伝など。

B委員：東京に三重テラスがあり、三重県の情報発信を行っているのならば、四日市では「ミニテラス」
として、東京で行うイベントを四日市でも同様にしたい。また、逆輸入のイメージ。また、
ぜひ、120周年でも市民協働の視点を入れてほしい。

事務局：市民協働まつりは開催する予定である。その他、市民の皆さんに主催者側になっていただける
ような、イベントも企画したい。

K委員：各部局がばらばらに行うイベントだけでなく、全庁的に取り組むものも必要である。

委員長：冒頭の市長挨拶の中で、「市民一体となって」という言葉があったが、「市役所も一体となって」取り組んでほしい。

事務局：全体的なPRに関する予算は、政策推進部で確保していくこととなる。

L委員：全国配信できるようなツールは使えないか。テレビ番組等で放映できるとよい。

事務局：テレビの全国放映をこちらから仕掛けるとなると、予算の問題もあり難しい。現在、東海ラジオの音楽番組の中に四日市市をPRするコーナーを設けてもらっている。こうしたものもうまく活用していきたい。

C委員：市の企画どのイベントでも観光大使がいるとよい。観光大使が市をPRするだけでなく、市民が応援したくなる対象になってほしい。まずは、観光大使を市民が知る機会にしたい。本日の会議の発言について、どの程度実現の可能性があるのか。何かしら形にしていきたい。

委員長：この企画委員会が単なる言いつばなしの場になることなく、活動につなげていきたいという思いである。

事務局：市としてもできるだけ、ご意見を反映させられるよう努力していく。

委員長：それぞれの企画がバラバラに実施されるのでは、もったいない。ぜひ横軸を通し、企画をつなげて行ってほしい。（あすなろうイベントの際には、博物館では電車に関する展示をし、図書館でも電車にまつわる本のコーナーを設置等）

100周年で誕生したこにゅうくんを盛り上げたい。ゆるきゃら日本一にするイベントを行う等。ガツンと人を呼び込めるイベントとして、例えば、B-1グランプリなど全国的なイベントを誘致してほしい。

事務局：こにゅうくんも今年度は1400体中17位と善戦した。来年は隣の桑名市でゆるきゃらグランプリが開催されることもあり、ぜひ、盛り上げていきたい。来年度予算に関わるような企画に関するアイデアについては今週中に事務局へいただきたい。

●市民企画イベントについて

H委員：募集期間が4/1～3/31となっているが、事業実施期間と同じでよいのか。現実的には無理が生じていないか。

事務局：事業として、29年度中に開催されるものを想定している。募集を早めに締め切るのではなく、通年受け付けるという意味ではあるが、実際に3/31に申請されたのでは、年度内の事業実施とはならないであろうから、現実的に即した形に改める。

B委員：複数地区を絡めたイベントを対象としてほしい。1地区だけでのイベントでは多少の拡充があったとしても、いつものイベントに終わってしまう。

事務局：せっかくの補助事業であるので、より波及効果の出る形を検討したい。地区での行事であっても、他地区からの参加を促す等の条件を付すことも考えられる。

F委員：111周年のときでも、横のつながりは少なかったように記憶している。スポーツは健康長寿につながるものであり、間口の広い、障害者スポーツや高齢者スポーツなどにも取り組んでいきたいと考えている。全市的なスポーツ大会を実施することで新たな出会いを創出したい。多くの方の出会いの場となれば、新しい協働が生まれる。

G委員：収益事業であったとしても、助成金は無理にしてもシンボルマークを使えるようにしてほしい。
少しでもPRにつなげていきたい。

C委員：補助率が1/2とのことで案ができていますが、自己資金1/2を用意できるのは、普段からしっかりと活動している団体だけである。新規で立ち上げた団体やコンセプトにしっかりマッチした事業など、何かしら条件を付してでも補助率を上げることはできないか。

事務局：現状は1/2の補助率を想定していたが、ご意見を受け、財政部局と調整してみる。

委員長：支援の内容の中に各種調整があがっているが、他団体の支援メニューの紹介であったり、支援が受けられそうな企業等との調整であったり、市がそうした調整の役割を担っていくのもアリではないか。

H委員：予算が底をつけば補助金の支出ができなくなるのであれば、申請期間を早い時期に集中させたほうがよいのではないかと。申請だけでも29年度になる前に受け付けることはできないか。

C委員：4/1以降の受付であれば、桜のイベントは実施できないことになる。そう考えると時期が限定されてしまい残念である。桜の植樹120本行い、新たな名所を作る。そこには観光大使にも植樹してもらおうなども考えられる。

事務局：単年度の考え方からすると、4/1～の事業は難しいだろう。表現を改めたい。

H委員：子どもが主体となってやるイベントであっても自己資金は用意しなければならないか。また、申請者が未成年であってもよいのか。

事務局：申請者によって補助率が変えることはない。また未成年者だけで企画するのではなく、監督責任のとれる方で申請していただくこととなるだろう。

J委員：収益事業、宗教的等の定義はどうなっているか。

事務局：最終的には審査会を実施し審査を行うこととなるが、例えば「宗教的」であれば、イベントが布教活動にあたるかなどが判断基準となる。フリーマーケットの場合は、売買する個別の店舗の経費については補助対象外であるが、場を提供する（にぎわい創出）の部分は対象となる可能性があるだろう。

B委員：120周年記念事業が、意識改革のきっかけとなることを望む。

事務局：市民の皆さんの声をぜひ予算につなげていきたいと考えている。ご意見をお寄せいただきたい。また、金額に反映させるだけでなく、イベント実施までの間に中身についてもご意見をいただければと思う。

C委員：今回の意見をできるだけ反映させてほしいし、また、その結果を示してほしい。

事務局：次回会議の際にはお示しする。

●次回開催予定

3月24日（金）午後5時～もしくは6時～ 詳細は改めて連絡させていただく。

以上